

赤色ネット被覆で施設内の気温上昇を抑えつつ ミナミキイロアザミウマの侵入を抑制できます

近年、冬春キュウリではキュウリ黄化えそ病が問題となっています。この病気は、ウイルスを媒介するミナミキイロアザミウマを施設内に入れないことが重要ですが、侵入量を減らすために防虫ネットの目合いを細かくすると、施設内の気温上昇につながります。そこで、ミナミキイロアザミウマの侵入抑制効果の高い赤色ネットを施設側窓に被覆することで、施設内の気温上昇を抑えつつミナミキイロアザミウマの侵入を抑制可能な防除法を開発しました。



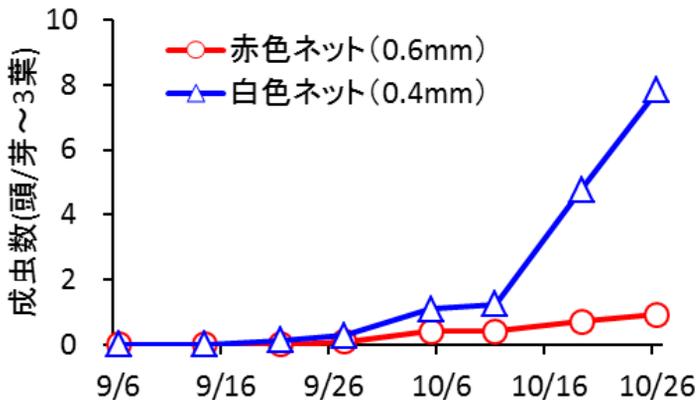
キュウリ黄化えそ病



ミナミキイロアザミウマ
(ウイルス媒介者)



ハウスに被覆した赤色ネット



赤色ネットを被覆した施設における定植90日後のキュウリ黄化えそ病発生状況(現地)

施設	防虫ネット	側窓沿いの発病株率(%)
A	赤色(0.6mm)	0
B	白色(1mm)	100

両施設とも、天敵(スワルスキーカブリダニ)を使用

キュウリ施設において赤色ネットと白色ネットを被覆した場合のミナミキイロアザミウマ数の推移

(研究成果)

- 赤色ネット(目合0.6mm)を施設栽培キュウリの側窓に被覆することで、目合いの細かい白色ネット(目合0.4mm)を被覆した場合よりも、ミナミキイロアザミウマの侵入量を抑制できます。
- 赤色ネット(目合0.6mm)被覆は、白色ネット(目合0.4mm)被覆よりも通気性が高く、施設内の日中の気温上昇を抑えることができます。
- 赤色ネット(目合0.6mm)を被覆することで、キュウリ黄化えそ病の発生を減らすことができます。